

CC1

症例 1 診断・病態の理解・治療それぞれで学ぶところの多かった一例

司会：辻野 一三（北海道大学病院内科 I）

CC2

症例 2 PGI2 全力治療にまつわる合併症の把握と対応について

司会：田村 雄一（国際医療福祉大学三回病院）

肺高血圧症（PH）は平均肺動脈圧 25 mmHg 以上と明確に定義される一方で、正しい診断（病型分類）には丁寧な問診・診察に加え広い視点や知識・経験が必要とされる。関連分野の基礎・臨床研究の発展に伴い分類も発表毎に改訂され、PH 診断においてはこれまで、そして今後も内科一般の幅広い視点と継続的な学びが求められる。

一方、治療においては効果の証明された内服薬が次々と使用可能となり、より簡便に早期からの併用療法が可能となっている。しかしその中でも PGI2 製剤の持続静注療法は今でも「最も頼りになる」治療であり、導入や治療継続にあたっては期待される効果と同時に様々なトラブルについて早期に正しく対処することが重要である。

本セッションは、司会者が経験した 2 症例を通じて、診断、病態の理解、そして治療について司会者と参加者がともに学ぶことを目標として企画された。セッションではクリッカーを用いて、参加した皆様の考えも伺いながら進行する。問題には知識や経験を共有させて頂くものだけでなく、答えはないが自分以外の参加者がどのように考え、診療しているかを知る手がかりになるものも含まれる。

「内科力」を超え、今や外科的知識・経験やチーム力まで問われるようになった PH 診療において、本セッションが参加者の皆様の診断力・治療力アップの一助になれば幸いである。